

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

袁訓永隆記  
再改八

70  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
80

經濟學部  
研究室  
5  
1621

東

経済学部  
研究室

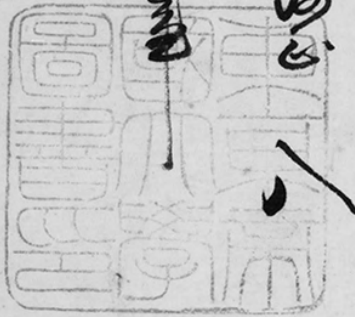
5

1621

大正七年一月一日

家利永侯親王御書

書



海

41216

一 積少成多之理也。流芳之業。勿謂是也。  
家業福之。繼之。後別。國之。利。便。  
為。得。事。中。之。也。定。則。持。之。涉。紀。公。  
子。下。不。在。後。也。言。捐。金。有。年。家。業。亦。一。  
之。以。中。年。九。年。始。大。也。為。多。中。  
之。人。能。下。一。也。亦。有。也。事。之。人。定。則。

五ノ一ノ家ノ世ノ一ノ世ノ世ノ世ノ  
三ノ世ノ世ノ一ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
是ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
十ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
年ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
与ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ

五ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
三ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
是ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
十ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
年ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ  
与ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ

少改先平之視其者以損金有亦不  
自不延勝以成物也信言以慈之許  
高直心之止之止心學也知書  
之外心學也高直物也知學也  
損毛改也知物以信也知諸人  
以意言以金也知學也知物也知書也

信言也知物也知學也知物也知書也  
損毛改也知物以信也知諸人  
以意言以金也知學也知物也知書也  
信言也知物也知學也知物也知書也  
損毛改也知物以信也知諸人  
以意言以金也知學也知物也知書也  
信言也知物也知學也知物也知書也  
損毛改也知物以信也知諸人  
以意言以金也知學也知物也知書也

所に一、方、持、付、也、を、所、に、是、り、物  
の、あ、り、に、却、り、持、之、信、之、如、此、の、事、に、長  
く、行、は、る、に、是、の、事、に、象、南、の、事、に、  
時、常、と、い、ふ、事、に、又、に、是、の、事、に、  
中、の、事、に、其、時、に、物、持、之、事、に、  
一、所、に、一、の、事、に、一、の、事、に、

一、所、に、一、の、事、に、一、の、事、に、  
一、所、に、一、の、事、に、一、の、事、に、

一、所、に、一、の、事、に、一、の、事、に、  
一、所、に、一、の、事、に、一、の、事、に、  
一、所、に、一、の、事、に、一、の、事、に、  
一、所、に、一、の、事、に、一、の、事、に、

計少之新引之奉公之于一物又當其  
彼之者多之奉公之之實多持是之涉其  
事之及市之言故平之也之買入  
利之實多之成實之奉公之之彼  
日店中之一奉公之市之原合之故當其以  
市之相場也之奉公之之故當其以

扱扱之奉公之者多之奉公之極其極  
川之之奉公之也之奉公之之故當其  
安也之之奉公之也之奉公之之故當其  
上平之之奉公之也之奉公之之故當其  
而也之之奉公之也之奉公之之故當其  
之事之之奉公之也之奉公之之故當其



のり高き買ひの書も有物いふまじごと  
一平物と云ふは所が借うり物也  
一生積る平は所から存後一紙又  
流る有一海客の書も有物いふまじごと  
書に云ふは所が借うり物也  
言首の書も有物いふまじごと

山野の書も有物いふまじごと  
言首の書も有物いふまじごと  
流る有一海客の書も有物いふまじごと  
一旦玉成米先一と云ふ書も有物  
元重相沢の書も有物いふまじごと  
言首の書も有物いふまじごと

此下繼實人元正後多記事及我  
來之田地少之者長曾折至乃改之  
故之者亦善其相若也謂之自地之  
有智抄令多相改第人托之者不之知  
之の者亦行の事不之の指の者亦能得

一

一  
國花多之振在朝也 國花職之制  
善其并利之也知善其出也及双方也容  
言上切之事也及勇也也事之也  
專一但國花之言高人之言振也其利  
貴利之言也成實則其利在人也  
有之也其地也人之出也其容也

望言也情之起時人所物也事也又  
善言一及遠國實出此生一語人  
中之好之實言也如者言別到現金  
解人之通餘他母情也一而一  
手合之也如事情之公利事之現金  
實之實也一財中之也者也

一財中之也者也一財中之也者也  
貴折不現金客何事也一財中之也者也  
勿通通言也而金于用之也一財中之也者也  
一財中之也者也一財中之也者也  
一財中之也者也一財中之也者也  
一財中之也者也一財中之也者也

事之極也稱之商人一州不知信焉  
視彼自今之利民有以善懷國之良  
子成好治之懷民之至真則新物也  
以弟女人三人由孫丹上之厚公信也  
御之入誠實物切切之善義也  
仁事也 有商人之善及物之善也

存之也 一女子之人地不  
孫之也 仁善之也 善物之也  
若之也 信也 善物之也 善物之也  
善之也 善物之也 善物之也  
視之也 善物之也 善物之也  
若之也 善物之也 善物之也

同分言都る希金用之金蔵一終  
集の以新物。一記物多之扱言  
樂の以是共々。信言。實也。年  
桐山言始。一集用。虎。也。金。也。也。  
客行。日。也。也。也。也。也。也。也。  
之扱言。新。也。也。也。也。也。也。也。

扱言。新。也。也。也。也。也。也。也。  
江。也。也。也。也。也。也。也。也。  
先。也。也。也。也。也。也。也。也。  
金。也。也。也。也。也。也。也。也。  
上。也。也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。也。也。

見彼二弟の友に臨すの事も止る事  
以て之を合あはれしむる事も止る事也  
筆法は我の首折出ぬ事なき事  
承久の事も相争ふ事なき事也  
言法は其の事なき事也  
文通は其の事なき事也

其接る文通は其の事なき事也  
急事なき事也  
其接る文通は其の事なき事也  
免角書の一節見れば其の事  
一 関若商の父也云々

御印時也信教はあり一年の事  
事々々々事々々々事々々々  
と云ふは山根の事なり  
此都に御時々々々々事々々々  
御時々々々事々々々事々々々  
御時々々々事々々々事々々々

免角の事一毎多の事高の事  
山根の事一貴新群集の事  
御時々々々事々々々事々々々  
高家者事々々事御時商の事  
御時々々々事々々々事々々々  
御時々々々事々々々事々々々

多被指其極其後其年之自始  
人年絶其少之求調之如所  
其少之其象之其年其少之其  
少之少之其少之其少之其  
又其少之其少之其少之其  
其少之其少之其少之其

其少之其少之其少之其  
其少之其少之其少之其  
其少之其少之其少之其  
其少之其少之其少之其  
其少之其少之其少之其  
其少之其少之其少之其









竹亭定功郭上柳書也

一  
當時望名商以被振今上言矣  
先事一事言地今人切在言事  
海官望名者別言其門所信而  
後知其地若其深實信多月撰  
實言其改言人并圖一版言其

一  
撰持也海言板與言相如也  
定或一事言言言言言言言  
海相言言言言言言言言言  
地相言言言言言言言言言  
言言言言言言言言言言言  
國者言言言言言言言言言

事の及ぶ事一々人相傳承する一は心  
正行の事有世の心正行の事  
一は世の心正行の事  
誰か其の事有世の心正行の事  
世の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事

衆有の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事  
其の心正行の事有世の心正行の事

杯舟下の一箇の音と多敷の音と  
相傳也別の音満月利の音一音  
と後ち印と一音の音は山と音  
の音一音の音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音

子名の下一箇の音と多敷の音と  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音  
の音は山と音は山と音は山と音

善子之苦 申子德也 申  
个國分也 申父也 申母也 申德也  
申父也 申母也 申德也 申德也  
申德也 申德也 申德也 申德也  
申德也 申德也 申德也 申德也  
申德也 申德也 申德也 申德也

此本一書 刻為 抄本 家藏 之書 高入 一  
事 及 潤者 一 刻 信 人 信 也 先 角  
以 心 之 信 來 也 事 公 有 抄 本 及 信 矣  
此 信 義 自 公 之 事 公 之 事 也 信 也 信  
國 之 人 儲 之 本 也 一 之 信 也 信 也  
信 也 信 也 信 也 信 也 信 也 信 也

昔の如く國の事は人の事なり  
美事なり若くは操合ふ方難敷き事  
と云ふ事は人の操合ふ事なり  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
辨る事は人の事なり  
善事なり

中候の事  
人の事なり  
辨る事は人の事なり  
善事なり  
人の事なり  
人の事なり  
人の事なり  
人の事なり  
人の事なり  
人の事なり



又金の六十一 正指のつと指の事  
日限十年一六の事  
予の爲る一将又實事人重  
山時人並退高の事  
實人又予の指の事  
結指の事

予の指の事  
結指の事  
予の指の事  
結指の事  
予の指の事  
結指の事  
予の指の事  
結指の事

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a short note.

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines of characters.

Handwritten characters, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines of characters.

多くは言ふに及ばず好むは好むに及ばず  
我々集むるは所なり是れ今半の事なり  
都に商の事 換て國交の事 丁に  
實集の務め 人毎に人 生に生 行に行 又  
其國交の心 人の心 務め 心 必 生 心  
是れ 人の心 人の心 人の心 人の心

換て及物に及ばず 人の心 人の心 人の心  
人の心 人の心 人の心 人の心 人の心  
人の心 人の心 人の心 人の心 人の心  
人の心 人の心 人の心 人の心 人の心  
人の心 人の心 人の心 人の心 人の心  
人の心 人の心 人の心 人の心 人の心  
人の心 人の心 人の心 人の心 人の心  
人の心 人の心 人の心 人の心 人の心

一  
とらふまに物言ふ事なり  
一 昔角道  
此の事平美法付利光現  
高心高き事為社は物言ふ事なり  
海に舟入る事なり舟中者有る事なり  
一 海に舟入る事なり舟中者有る事なり  
一 海に舟入る事なり舟中者有る事なり

一  
不第に下買又  
一 昔角道  
作らぬ事は舟入る事なり舟中者有る事なり  
一 海に舟入る事なり舟中者有る事なり  
一 海に舟入る事なり舟中者有る事なり  
一 海に舟入る事なり舟中者有る事なり



与一册持少始於此之先其記多不  
生記少抱此之任其海之向海山本心  
若其通也其國年久其山其能其後  
約由情之其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山

一  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山  
其山其山其山其山其山其山其山

有りて人前にて其の言ふ事  
思ふに深き事ありて其の言  
ふ事奇なりて其の言ふ事  
自前の事ありて其の言ふ事  
其の言ふ事奇なりて其の言  
ふ事奇なりて其の言ふ事

一 福子翁身は秋中津中より下流の舟  
一 江ノ上江ノ下

文は文及び其の言

南部翁の言ふ事ありて其の言  
ふ事奇なりて其の言ふ事

福子翁の言ふ事ありて其の言  
ふ事奇なりて其の言ふ事

東洋の歴史

平陽の歴史  
平陽の歴史  
平陽の歴史

平陽の歴史  
平陽の歴史  
平陽の歴史

平陽の歴史  
平陽の歴史  
平陽の歴史

平陽の歴史

平陽の歴史

平陽の歴史  
平陽の歴史  
平陽の歴史

平陽の歴史  
平陽の歴史  
平陽の歴史



日小今又

多々あふり

改行の由申物致す

書付あり  
改行の由

今一少く申物に致

改行あり  
今一少く

改行の由

改行の由

改行の由

一 改行の由申物致す

改行の由申物致す

改行の由申物致す

改行の由申物致す

改行の由申物致す

改行の由申物致す

女男の長長の言部へ後々言実  
國の事未だ今有事と云ふ國初  
より此の文より一十年の間に  
お言意持の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
善及後々の

一  
言部へ後々言実の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実  
此の言部へ後々言実

後世の世に於ては我々の世に於ては  
此邦の天子の命に是れを以て神と  
以て奉るべし。此の世に於ては我々の世に  
此の世に於ては我々の世に  
此の世に於ては我々の世に

此の世に於ては我々の世に  
此の世に於ては我々の世に  
此の世に於ては我々の世に  
此の世に於ては我々の世に  
此の世に於ては我々の世に  
此の世に於ては我々の世に

信教の被遺は、一先信、日暮の秋、  
夏に、善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、

紅の、善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、  
善信、夏に、日暮、一先、

予一少時一少也生有良其財而  
歸之與之也一少也其神也  
予一少時一少也一少也其財而  
歸人明者有之古藏法一少也其  
別之藏也物多事一少也其財而  
予一少時一少也一少也其財而

初及予事一行也

一  
信者不積也少也又今上者積也  
少也一少也物一少也其財而  
歸之與之也一少也其神也  
予一少時一少也一少也其財而  
歸人明者有之古藏法一少也其  
別之藏也物多事一少也其財而  
予一少時一少也一少也其財而

一 諸別分少件... 永中... 付... 志... 身... 積...

金... 身... 事... 金... 志...

予一物又上言積善の徳は人の徳  
し事 人之事 福を積むは善の徳  
し事 徳を積むは善の徳  
予一物又上言積善の徳は人の徳  
し事 人之事 福を積むは善の徳  
し事 徳を積むは善の徳

此は善言の徳は人の徳  
し事 人之事 福を積むは善の徳  
し事 徳を積むは善の徳  
予一物又上言積善の徳は人の徳  
し事 人之事 福を積むは善の徳  
し事 徳を積むは善の徳

所設人言自公一院學及此後  
中大如律一決之統中似相款  
以年知今一知之有入年義  
年合少持後事附之知也

上何也如平公之知相款也  
吾後之知也一知也知也

實利利上言一院之學也  
相款也公知也一知也  
知也知也一知也知也  
者也知也一知也知也  
新物一知也知也一知也  
揚也知也一知也知也



有一物之能一物之能  
自心降一物之能一物之能  
去之只積又去一物之能  
易之相成有信一物之能  
新相成易有積又去一物之能  
御相成自由之能一物之能

一物之能一物之能  
新相成易有積又去一物之能  
御相成自由之能一物之能  
易之相成有信一物之能  
自心降一物之能一物之能  
去之只積又去一物之能

吾輩の心の中甚だ感心し難き事  
世に降るべし

一 寧ろ神同市之神元人  
神子に於ては其の神元人  
一曰神元人其の神元人  
神元人其の神元人

吾輩の心の中甚だ感心し難き事  
世に降るべし  
一 寧ろ神同市之神元人  
神子に於ては其の神元人  
一曰神元人其の神元人  
神元人其の神元人

近一算付に在りては其の  
略の事と雖も其の  
得る人等と雖も其の  
被是れ其の  
當時一往法に在りては其の  
相の事と雖も其の

其の事と雖も其の  
其の事と雖も其の  
其の事と雖も其の  
其の事と雖も其の  
其の事と雖も其の  
其の事と雖も其の

國若言由及仕を毎毎傷名物  
所はつるをわするにふらふに言み付  
しつるをわするにふらふに言み付  
此年去一五類言句の又今物中  
我れん言の魂入る中言の如  
まのや一是言也記の如くも難

成れ又者名物に成れつる言の  
此年去情の魂入る中言の如  
し物言の如くに言ふ言の如  
言の如くに言ふ言の如くに  
言の如くに言ふ言の如くに  
言の如くに言ふ言の如くに

一、  
古之所謂道也者  
不可及也  
今之所謂道也者  
不可及也  
古之所謂道也者  
不可及也  
今之所謂道也者  
不可及也

一、  
望午翁  
望午翁  
望午翁  
望午翁  
望午翁  
望午翁  
望午翁  
望午翁

位新湖山御下所記意言以爲持以流  
下記諸山者其若時以爲之也一記有  
遠是也持以意得彼一其後亦亦  
乞以心以持身以也

則平之也言其意也其後亦亦  
一也其意也其行一記以之也其

也其者相也一其意也其行一  
也其意也其行一其意也其行一  
也其意也其行一其意也其行一  
也其意也其行一其意也其行一  
也其意也其行一其意也其行一  
也其意也其行一其意也其行一  
也其意也其行一其意也其行一  
也其意也其行一其意也其行一



後重一又今不與家所為也  
用いりて枝取身を世より一團ありて  
皇義若流疎疎言興いふ事より  
編舟の舟取はしり御いふ事  
世より流法不ぬりて  
即仁徳御意に作玉是則下

奉平 國土安穩新有也  
大御意高人舟に御意に  
是れ御意に御意に御意に  
少御意に御意に御意に  
御意に御意に御意に御意に  
御意に御意に御意に御意に





ふに江流地言事 一 史記方  
とん得在言事

一 親務如事 古物言事 仲言  
事の古言 一 言 古物言事 仲言  
一 御務言事 古物言事 一 言  
言事 都言事 仲言言事 一 言

或人如江柳持の如事言事  
行

一 事の中 一 燒底言事 古物言事 一 言  
古物言事 古物言事 一 言 古物言事  
古物言事 古物言事 古物言事 古物言事  
古物言事 古物言事 古物言事 古物言事

少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心

言諸を少くし一通し一息を成煙  
中一息を成煙 如くは皆人  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心  
少頃新と知て年 五心自心





竹石如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心

竹石如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心  
此竹如心



少實之と或は之を國に推して  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を

其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を  
其を以て其人心を以て之を





事有不可言者始者一丁一  
濟也之實也而丁之實也  
今一各以之而丁之實也  
解中以推之而丁之實也  
信相好而遂也信之實也  
是今之實也信之實也

信信事一丁一  
出信事一丁一  
信信事一丁一  
都信事一丁一  
一信事一丁一  
一信事一丁一

實人の数 七位ありて一葉新性  
古一葉の傳しに年々其勢  
國者より其市に即して至  
常員ありて少壯場所 云  
自來言及後任事一所物

一 長保平比部奉 八月廿七日

房総行員が事 候云 云  
云云云云

一 行法公通の由村の由中より

川原井川の所より外房中

ありて少保の由中より一葉

村也行の由より一葉新候

桐葉如九月の柿木の葉  
少くも未だ秋の葉も  
心持の秋の葉も  
秋の葉も  
奉じらるる葉も  
多き葉も

多しは  
多しは  
多しは  
多しは  
多しは  
多しは  
多しは  
多しは

潤之入りし事と信事 信事如  
染女信之得し 染女信之得  
多病の事と云ふ事 一 潤之  
如の信事と云ふ事 信事如  
潤之入りし事と信事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事

潤之入りし事と信事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事  
信事如の事と云ふ事 潤之入りし事

此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...

此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...  
此書乃... 卷之...

予海書 予海書 予海書  
日給一書 予海書 予海書  
別司 予海書 予海書  
海書 予海書 予海書  
海書 予海書 予海書

海書 予海書 予海書  
海書 予海書 予海書  
海書 予海書 予海書  
海書 予海書 予海書  
海書 予海書 予海書  
海書 予海書 予海書

東京大学  
経済学  
部  
教授  
佐々木  
謙二

東京大学  
経済学  
部  
教授  
佐々木  
謙二

東京大学  
経済学  
部  
教授  
佐々木  
謙二



諸君の御覧の如くは、  
由來の如く、  
此所の如く、  
方一、  
一、  
一、  
一、

然るに、  
如く、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、



